

〔註〕

一、村山槐多著・山崎省三編『槐多の歌へる』（アルス、一九二〇年六月一日）所載の「書簡集」（五八二～五八三頁、書簡の時期は無表記である）。国立国会図書館の蔵本の奥附では、書名の「槐」は「塊」に見え、発行年は「大正九月」とあり、発行日は「十五」が手書きで「貳拾」と訂正されている。引用文において、各段落の冒頭に一字分の空白がないのは原文の通りである。最後の行は冒頭に二字分の空白があると判断したが、微妙である。なお、この書簡は、村山槐多『村山槐多全集 増補版』（彌生書房、一九九三年三月一日、四一九頁）でも読むことができるが、テキストには異同がある。

二、旅行については、「村山槐多の関連写真二枚（「本社主催壮快旅行）」（植田智晴執筆・発行、二〇一三年二月二〇日初稿発行、左記のハイパーリンク参照）を参照されたい。

<http://www.sekimeshoji.net/shiryomeika/sakka/kaita/b3-10kuchie/b3-10kuchie.htm>

三、村山槐多「坑内が一等面白つた」（『武侠世界』第三卷第一〇号、武侠世界社、一九一四年九月一日、三六頁、左記のハイパーリンク参照）。

四、村山槐多「事実乎小説乎殺人行者」(『武侠世界』第四卷第五号、一九一五年四月一日、四七頁)。他のテキストとして代表的なものは、村山槐多著・山本二郎編『槐多の歌へる其後及び槐多の話』(アルス、一九二一年四月一八日)所載の「殺人行者」(六六頁)、『村山槐多全集 増補版』(註一の文献)所載の「殺人行者」(二〇八頁)である。なお、前者の文献は国立国会図書館の蔵本を参照した。同蔵本では、発行日の「十八」が手書きで「廿一」または「十一」と訂正されているが、これが正しいのかどうかは不明である。書誌情報は原則として奥附に基づくが、著者と書名は標題紙に基づく。著者は奥附には無表記であり、編者は標題紙では「山本路郎」になっている。書名は奥附では『槐多の歌へる其後』とされている。

五、目次には挿絵の作者は書かれていない。今回の小説が載っている雑誌の口絵(『凄惨なる室の間の怪異』の作者は小杉未醒なので、小杉が挿絵も描いている可能性はあるかもしれないが、詳細は不明である。小杉未醒(『凄惨なる室の間の怪異』(『武侠世界』第四卷第五号「註四の文献」、口絵「頁数無表記」)参照。なお、目次では、口絵の作者は「小杉画伯」、題名は『蛇の室の怪異』になっている。

執筆者・発行者 植田智晴

二〇一三年九月一五日 初稿発行

二〇一三年一〇月一三日 第二稿発行

二〇一三年一二月一七日 第三稿発行

© UEDA Tomoharu 2013-2023

この PDF の無断での転載、複製などは禁止とさせていただきます。